

平成20年度「鳥取市政懇話会」

第4回 高速道路を活かした地域経済の活性化と雇用の創出部会

日時：平成20年11月25日（火）

午後1時～2時20分

場所：鳥取市役所本庁舎6階第1会議室

出席者(敬称略)

【委員】安養寺幸男、海野龍一、川上一郎、神部みゆき、清水昭允、中西重康、福島猛夫

【鳥取市】大西経済観光部長、大塚農林水産部長

1. 開 会

2. 部会長あいさつ

部会長

だんだん寒風というか冬型の気圧配置になって、明日からまた気温が下がりそうです。先日もちょっと白くなったときがあったのですが、ちょっと今、中緩みみたいな感じがしております。

この会も第4回を迎えて、その中の1回を関西地区の視察ということで、大阪の方に行って参りました。今日で大体まとめというか、それをさせてもらって今年度の方はもうこれでおしまいということになるのではないかなと思います。それぞれの委員の皆さんにはいろいろとお知恵を出してもらい、それからいろいろな提案を出していただき、この会が無事にこうして進んでおることをお礼申し上げたいと思います。

そういうことで最終回は、これから全体会を2時半から持っておりますので、それぞれの委員の皆さんのまとめみたいなものを出していただいて、高速道路を活かした地域経済の活性化と雇用の創出部会ということで、要は農林業、それから商工業いろいろとミックスして、いかに高速道路ができたときに効果を出していくかということをポイントにしておりますので、いい意見の方をひとつよろしくお願ひしたいと思います。きょうは御苦労さんです。

3．意見交換

部会長 これまでの御意見等で「はじめに」ということから始まって、ずっと説明があります。「おわりに」ということで締められておりますけど、それぞれ皆さんの発言用紙をそこにポイントをつかんで書いていただいております。それにちょっと枝葉をつけていただいて皆さんの方から発言してもらい、またこれに出ていない部分がありましたら、それも一緒に発言していただければと思うのですが。結局、1番と2番ということに分けております。1番がやはり砂丘を中心にした地域経済活性化ということで、砂丘とPRと地元とその他ということになっております。2番が産業振興策ということで地場産業から始まって商工業、それから農、いろいろここに産業的な面があると思いますので、とりあえず前半としては砂丘の方を活用した活性化ということで御発言の方、ひとつお願いしたいと思っておりますけど。どなたからか。

委員 初めにあの、ちょっとだけお伝えというか訂正していただきたいと思っております。この先回送っていただいた資料の、4ページ目に私の発言で、お持ちかどうか知りませんが、若桜の弁天祭も高齢化で大変らしい、若桜も一生懸命やっている、この一行があるわけなのですね。これを若桜の人に言ったら大変怒るのではないかなど。私が申し上げたのは、若桜の弁天さんも要するに高い、車が上がらないところだから高齢化で大変らしいと、それで歩いてお参りする、お年寄りが大変苦しいところであると。それだからという意味かどうか知りませんが、若桜の駅前に、昨年弁天さんの分社が駅前にできたという発言をしたわけですね。代理参拝ができるようになりました、SLの認知度も高くなった、道の駅も若桜に新設されたと、若桜も一生懸命やっておられるという意味で申し上げたつもりだけれども、こういう1行になってしまいました。若桜の人が見たら怒るだろうし、ちょっとこの意味の訂正をさせていただきます。

事務局 申しわけありません、十分に、意を酌み取れていませんでした。

委員 10分ばかりと思いますが。まず、砂丘の活性化。部会の中で提案した恋のメッカと宿泊施設の充実ということなのですからけれども、砂丘を守る条例とか砂丘の達人検定とか砂の博物館とか、いろいろ最近、鳥取砂丘の動きが非常に活性化されておまして、こういうハードの面ばかりではなくてロマンを加味してPRしたら、もっと砂丘が注目されるのではないかなというふうに思います。これは前に申し上げた分ですけど、若い人へのロマンチックな取り組みという、林副市長も喜んでいただいた発言でしたが、砂丘を恋のメッカにと。砂丘の夕日とか点滅する漁火、月の砂漠、広い鳥

取砂丘の中で、夜、世界の中のたった2人だけだというような存在感を意識して、それで恋が成就すると。私、出張のたびに東京などで一生懸命PRしていましたが、夜の砂丘を、何組も恋が成就しましたという感謝された事例もありますので。これはとにかく広告代理店をうまく使って、こういうこと活用していただければそういうロマンの面でいいのではないかなというふうに思います。ただ、当時と違って最近中西さんのあたりどうか知りませんが、保安対策が必要かなと。あのころはそれで、たった2人夜の砂丘に出ていて月を見ても漁火を見てもよかったのですが、今になって思うと、こらというようなのが出てくるのではないかなと思ったりして、これはちょっと心配いたします。それで、砂丘を恋のメッカにしようというようなことでまとめました、一つは。2つ目がせっかくの夕日を見に来て月月の砂漠を歩いても、すぐ近場に安心して宿泊できる清潔な施設がなければいけないのではないかと。砂丘の周辺、細川とか岩戸とか、前の旧国民宿舎などの再建も急いで、気軽に利用できるホテルとか、人情味のある民宿の充実をされたらいいのではないかとというのがこの1の項です。よろしいでしょうか。2番目は、中山間地対策、行政主導で田畑、オーナー制度の充実。これはもう申し上げたと思うのですが、無料の高速鳥取自動車道が開通して、京阪神、山陽方面から日帰りで往復できるようになれば、PRの仕方によっては、豊かな鳥取の自然の中で農業をとの希望者も夢ではないのではないかと。稲作でも果樹とか野菜栽培でも、これは資金面、耕作器具とか作付、それから収穫まで大変なノウハウが必要でありますけれども、無経験者でも成功する方策を具体化してPRすると。行政でここまでやっていただければ、中山間対策にもなり、成功すればUターン、Iターンにも発展して鳥取市の人口が増加につながるのではないかと。それは理想論だと言われるかも知れませんが、無理とは言わずに徹底して具体的な立案をして成功していただければ本当にいいのではないかなと思って書いたのが2番です。3番は、産業振興と観光PR。鳥取自動車道で道の駅めぐりと観光に出かけようと、そういうマップづくりでもしていただけたらと。例えば智頭の道の駅はこれちょっと外していますが、河原の道の駅では八上姫の売沼神社とか、次の日、賀露のかるいちまで足を延ばして、次の道の駅は白兔ですから、そこで白兔神社や淤岐ノ島、時間があれば9号線で羽合、大栄までも紹介してもいいですし、それから帰って東部では29号線に入って、はっとう道の駅とフルーツ公園、それから若桜道の駅ではデゴイチの蒸気機関車が、それぞれ道の駅の名産や名物を紹介、賞味し販売につなぐというこ

とにして、宿泊にはまたお泊まりの場合はということで近場の温泉も紹介すると。そういう観光マップ的なものをつくって周知徹底を図れば、よその方には新しく感じるかもわかりませんので、こういうのも一つの方法ではないかというのが3番です。

それから、4項目ですけど、観光と商業振興。この黒丸はいずれも山川さんが出してくださった題、タイトルですから、その中で鳥取駅北口のケヤキの森の一部を観光バスの駐車場にという持論です。砂丘見物、カニツアー、ナシ狩りなどの観光バスは、鳥取市街地に入ることなくほとんど通過しているというふうに聞いております。小さな木だったのがケヤキの森に育ち、縮小するのは忍びないのですけども。ただ、そのケヤキの森を一部割愛して、観光バス五、六台でも入るような駐車場に新設すれば、鳥取駅前に観光客を降ろして中心市街地に行くと。レンタルサイクルでも設置すれば、民芸美術館や駅前市場という、その近くよりも遠く、鳥取城址、山の手通りとか、樗谿公園などの散策も可能となると。これもいろいろ歩いていただければ、商店街の活性化につながるのではないかと。なおかつ多くの、松江のあたりは本当にバス、駅からすぐ丁寧に上りというのがよくわかるのですけども、どこにあるかわからないような今のバスターミナル、駅から降客には観光客にはわからないようなバスターミナルもこれで見やすくなるなどというのが4番です。5番は、商業施設で新誓文払いの再生と。今も全力を挙げて、要するにもう新しい考え方で若い人たちにそれに期待しようというのがサブタイトルですが、最近、例の太平線の駅前で大きなにぎわいをやられたり、サンロードの日曜マーケットとか川端銀座のイベント、いろいろとやっておられます。ここに書いていませんが、今度県文の前で11月30日に因幡にぎや街道というのをおやりになるようですし、こういう取り組みの主催団体はいろいろ異なりますけれども、中心市街地、商店街活性化の動きがいろいろと最近大きく始まっています。それぞれ話題づくり、にぎわいづくりには成功しておられますけれども、このような単発的なイベントではなく、行政が後援して商店街の各組織、商工会議所、マスコミあるいはそういういろいろやっぺらっぺらる全てのものの青年部的なところの主催で、全市を挙げて現代版の誓文払い、これも誓文払いというのは商品の売買だけでしたけれども、そういうことではなくていろいろなイベントも加味して、人材あるいは経費なども総力をこれに結集して成功させて鳥取のメインにされれば、但馬の方からも津山の方からでも来られるようになりはしないかと。年に2回でも。誓文払いといったら秋だけでしたけれども、収穫祭のようなことでしたから。タイトルも変え

て新誓文払いの再生ということをできたらいいなというようなことです。

委員 先ほど雑談の中に食材のPRを東京でやっていらっしゃるということで、専門家の先生にとりあえずカニとかモサエビとかいろいろなそういう料理の方法を考えていただくのですが、だけでもその味をそのまま鳥取に持って帰ってきて、東京で食べた味がそのまま鳥取に来たときに同じようなものが食べられるかということ、それがまず不可能だということ、それが一つ大きな問題かなというふうに感じますし、ちょうどこの連休に誰も知らないのだけでもすごいイベントが浜からあったのですよ。というのは、サーファーの大会なのです。これ、誰も知らないのです。サーファー仲間だけしか知らない。それが本州ほとんど、全県にわたって県外ナンバーが来ているのですよ。うちに泊まったのが九州、あるいは愛知、静岡、湘南、ああいう連中がうちに泊まりました。それでカニがおいしかったと言っていますけど、ひょっとしてパラグライダーがあり、サンドスキーというかサンドボードがあり、もう一つ空と砂丘と海、何でここがその大会の場所になるのだということ、この砂丘周辺の波が上位にランクされているそうなのですね、波が。ここでなければサーファーの大会ができないというぐらいの波だそうなのですよ。それも一つの資源ではないかなというふうに痛烈に感じたわけです。彼らは、高校卒業して十七、八ぐらいから、最高齢の方が僕より年上かなと思った、おたくは何歳ぐらいですかね、70幾つ。だから、年齢、男女全然問わないです、あの人たちは。サーフィンの醍醐味というのを追いかけているわけです。それに鳥取の砂丘の波が最上にランクされているというところにもっと注目すべきなのではないか、我々が、砂だけではなくて。そういうことを強く感じましたですね。それと普段はあの人たちは徹底してお金を使わないことに長けています。でも、全国各地からわざわざ来る、鳥取のどこかいいところから何かおいしいものを食べて2泊ぐらいします。おいしいものを食べて土産話に持って帰ろうやみたいなのが、やっぱり仲間でネットや携帯で全部集まるのですよ。あれを利用する方法はないのかなと、しみじみ感じました。そして、キムタクが来たとか来ないとかということがあるのですけども、ああいうタレントの中でも結構サーファーの人たちがいるのですよね。そういう人たちがひそかに鳥取に来てサーフィンをやっているという事実を、これもっとうまい方法で考えられないかなというふうに、この間の連休、痛烈に感じました。それで年に2回やるそうです。真っ黒の人ばかりなのですよ。でも、それがサーフィンに興味のある人だけしか集まって来ないので。ここに問題があると。ではどう

いうルートで来るわけという、あの人たち寝泊まり関係ないですから、車の中で。だから高速道路がつながっていてもつながってなくてもそんなことは関係なくて、いい波があるところにどういう方法だって行くというのです。車も、キャンピングカーに改造していますからね。そういう車がわんさと来ています。駐車場もないし、泊まる場所やそういうのがないから、こういうふうになっているのだと。でも彼らの話を聞くと、何か一つその中にすごいヒントがあるような気がするのです。一応とりあえず直近で感じたことはそのことなのです。ただ、その砂丘を利用した、活用したと活性化にということで、これも一つ加えるべきではないかなと思いましたので話させていただきました。

委員 私も、鳥取には、砂丘には本当にすばらしい観光メッカになるものは、素材がたくさんあるのだなということを感じました。実は、先般5日ほどフィルムコミッションのNPOの方、ボランティアで応援しておりまして、NHKのエンタープライズさんを御案内いたしましたのですが、そのときに賀露へ行って、あれは何だったかな、イカどんというのですか、食べてもらいましたが本当にびっくりされてね、何ておいしいものがある、こんなおいしいものが鳥取にはあるのですかと言ってね。やっぱり観光地の要素も皆さんいろいろ議論されて、本当にロケーションと、それからやっぱり施設と食ですね。あとはそのもてなしですが、この食は本当にいいものがある。おかげで、来月2週間、砂丘なり浦富海岸の方のロケに来ていただくことになりましたけど、そこで思ったのですが、私、知りませんでしたけど、今ハンバーグというのですか、ものすごいヒットしていますね。

○委員 御当地バーガー。

委員 広島のカキバーガーとか、金沢のブリを使った金沢バーガーとかね、三重県の伊勢の伊勢バーガー、たしかね。御当地の名前を使ったり、その地域でとれる食材をネーミングにしたバーガーが今大ヒットしておりますけど。私、知りませんがモサエビというのは鳥取だけしかとれないと僕は知りませんでした。あの香ばしい香りを使ったモサバーガーがいいのか、因幡バーガーがいいのかわかりませんが、ああいうものを本当に共同事業で県民や地域住民と、やっぱり鳥取のそういったものを一工夫加工して若い人に受け入れられる、砂丘に行けば美術館もありますねと。この前もラッキョウ畑へ連れていきました、御案内しました。

委員 そのときにつくづくと思ったのですけどもね、滞在型になる食材は本当に立派な

ものがあるので、それを活用して、砂丘のラッキョウを使ったバーガーもあるのかもしれないから。福井はもう三国バーガーでしたかね、福井産のラッキョウを使ったものをやっていますけども、そういうものをチャレンジして新しい若い人に魅力を持ってもらえば食材開発の、やっぱりチャレンジというものがいるのではないかなと思いましたね。

委員 福井にはモサエビ、ありますので取られないうちにお早くしてください。

○委員 モサエビというのはカニの底びき網の中に入ってくるのですよ。

委員 福井とか金沢でもとれるのだと思っていました。

委員 でも、あれは足が速いからよそに持っていけないんですよ。

委員 でも、この間テレビでは鳥取しかとれないと言っていましたね。

委員 シロイカの刺身とモサエビ、もうこれもうちも今イカどんぶりとかモサエビどんぶりとかなんとかとやっているのですが、シロイカのよく活きたのは感激しますね。どんなイカを食べていたのだと思うくらい感激しますよ。

委員 霊石山というのは西日本で気流が一番いいのですってね、ハングライダーと今二種類来ていますけど、土、日に50、60いつも上がっているのですよ、天気の良い日は。それで関西からかなと思っていましたら、今日、バスを待っていたら東海フライングクラブという大きな車が来て視察しているのです、千代河川着陸地点。車のナンバーを見たらやっぱりそうなのですよ、愛知ナンバーです。だから、京阪神、山陽ではなくて向こうからも、要するに霊石山の注目度が随分高くなっていると思います。そしたら、高速道路はただだぞと。名古屋の方で一生懸命やっておられますけど、県も市もPRを。名古屋にも事務所ができたし。だからこれはまたすごいなと。高速道路とひっつけて、海でしょう。それは本当に50、60いつも飛んでいますよ。僕の地元ですから、パラグライダーとハングライダーが。だからこれも、もう一つ何かとおっしゃいましたね、海と空と。

委員 いや、砂丘があるのですから、空と海と砂丘と、という3点セットでね。

委員 鳥取市にも行けば30分以内で乗っていけるし、海と空で一緒にPRされたら。

委員 だから、その気流も砂丘沖の波もみんな観光資源にしてしまうという考え方で。

委員 京阪神、山陽のナンバーばかりでした、駐車が。ところが、愛知ナンバーがきょうは視察に来ていたのです。だから、もうこれは高速道路の方に関係あるのかなと思ったり、向こうからも呼べるということです。本当に気流がいいのですって。

委員 9号線を走ると小沢見から水尻から白兔の辺もいっぱい、真っ黒になるぐらいサーファーがいますよ、何だろうと思うぐらい。だから、日本海の波がいいとおっしゃったのは結局あのあたりが全部つながっているでしょう。

委員 砂丘周辺の波が一番上位にランクされているということなのです。

委員 ええ、水尻のあたりまでもう真っ黒に、いいときには海鳥がいます。

委員 いろいろな意見がこの1年間、2年間出てきていっぱい私も勉強になったのですが、本当に最終的に、今日、話をまとめるということで来たのだけでも、イベントにしても特産品にしても、御当地バーガーというのも境港やら鳥取のモサエビやらできて販売されたりとか、いろいろなことで本当に新しいことを挑戦してきておられるのですが、それが全国ニュースで取り上げられるほどのものにならないというのが、やっぱり一つ足りないのではないかなと思うのですよね。地元だけでわあわあ、わあわあと言っているだけでは、やっぱりそれは全国発信できないのですよね。だからそれが本当に鳥取のこういうのができましてとか、というのが全国的なニュースになるようなイベントなり特産品というものがちょっと欲しいなと思ったことと、それと私はいつもこのことを発言しているのですが、やっぱり県民、市民、みんなの観光に対しても地元を愛する気持ちにしても、そういう気持ちの高揚というのがちょっと足りないのですよね。何とか、とにかく鳥取をそういうふうなにぎやかな町にしたいというのは、各地でいろいろな人がいろいろな形で動いて本当に頑張っておられるのですが、それがみんなの声にならない、みんなに伝わらないというのが本当に残念だなと思っているのですが、地区の懇談会というのが回り持ちでありますよね、市長も全部含めて皆さん各地区に回っていく。あのとき私も時々出るのですが、その地区の不平不満の対応だとか何かの説明だとか、そういうことが主であって、何かもうちょっとああいうときにみんな、地区の人たちを含めてこの町をにぎやかにする案を出してくださいとか、そういうのに参加する人たちを募るとか、その地区の懇談会をそういうことにもどんどん利用していけばいいのではないかなと思うのです。そういう話はないような気がするのですよ。

部会長 いつもテーマが決めてありましたね。

委員 そうですね。

部会長 それが終わったら、2時間ぐらいですから、さようならということになるので。

委員 苦情処理みたいな形の懇談会になってしまっていて、せっかくその地区の人たち

と市長が触れ合ういい機会ですので、そういうのもこの町を元気にする、それから皆さんに参加してもらうための手だてとしての一つ、それが設定の場にならないかなということ。それともう一つ思うのですが、広報活動がいつも出るのですが、非常にこれは力が弱いと思うのです。市報だとか、それからぴょんぴょんネットとかいろいろなところでやっていますといつもおっしゃるのですが、本当にそれはネットにしてもアクセスする人が少ないですから、町中を歩いていてもあまり市の、因幡の祭典というのはある場所に行けば書いてありますけども、本当にそれは限られた場所であって、市内の至るところに張ってあってもいいのではないかと私は思うのですよ。そういうチラシとかポスターとかそういうものをどんどん市民の目につくところとか、いろいろなところ、商店街でもマーケットでもみんな、それこそ張らせてもらったらいいと思うのですが、目につく場所が非常に少ないと思うのですね。それを、だからもっとみんなのやっぱり目につくところにもっと大々的に広くPRできるような形にしていけばいいのかなと、済みません。

委員 もう話は全部出ていると思うのです。要するにどんな人たちが集まってくるかというと、体験型の一定の趣味の範囲というか一定の好みを持った人たちが鳥取には来てくれるということが委員さんの話を聞いているとよくわかります。はっきり言えばハングライダーをやる人だったり、サーフィンをやる人。こういうのは幾つそれを得られるかですよね。例えばサンドボードというのもありましたよね。これもきっとあるだろうし、パラグライダーもあるだろうと。つまりこれ、全部キーワードは何かといったら体験型なのですよね。だから体験型の何かをやるということになってきます。そうすると体験型の人は何日か泊まってくれる。だから体験型の要するにそういう一定の趣味の人たちというのをねらったインフラストラクチャーを僕は整えて、その上で宣伝をするということになります。では、この人たちはどんな特徴を持っているのかというと、はっきり言ってNHKのテレビを見る人ではないと思っています。彼らは自分たちで情報ネットワークを持っていて、情報網を持ちます。だから、そういう人たちの同人誌だとかそういうところに売り込んであげれば、そういう人たちは必ず来ますよね。サーフィンの、必ずインターネットの掲示ボードがありますからこのところにこっちが打って出ていくと、そういうことが必要なのではないかと思います。テレビでやるとしたら、リポーターは本当にその人たちの体験はどうなっているのかというのを延々追いかけて、それを放送にするしか多分、NHKとしてはやり

ようがないと思います。だから、こんなすてきな鳥取の趣味のスポーツがみたいな話になるわけですね、多分そういうことになると思います。

委員 これには全部まとめられておりますが、まとめということであえて考えますと、特に市の立場、行政の立場でこれをどう受けとめるかということになりますと、私は振り返ってみて、テーマそのものの中で、高速道路を生かして云々こうあるわけですが、高速道路というのはあくまでも一つの機会、チャンスというきっかけであって、本来のテーマはやっぱり活性化という言葉にこれはあるのかなというふうに感じました。そして、活性化という視点でとらえていきますと、議論されてきましたように、その一つ一つ問題に対してダイレクトに組み立てるのではなくて、全部関係し合っておりますから、そういう意味では総合的にと、ここにもまとめの中にもタイトルにしてありますけども、総合的なという部分、ここがある意味では、ぼけて難しいのにくて、一番大事な部分ということだろうと思います。なぜ総合的かということ、我々が担当したこの観光にしても産業にしても、資源というものに立脚しておることですよね。ですから、資源に立脚したものということになると、もう総合的にならざるを得ないということになってくるわけです。したがって、ポイントをずっと探っていけば行くほどまた広がっていかなくてまとめていかなくてはならない。そこに難しさがあるだろうと思いますね。そこで行政がこれを取り上げようとしたときに、縦割り組織の機構の中で、余計に結局総合化というよりも今度は逆に分散してしまって、細切れになってしまう。企画というところが一つ部署がありますけども、これは本来の意味の企画としての機能をしにくい機構だろうと思うのです。横並びの中にある企画であって、全部の各部署を統括した企画、つまり市長に直結したようなものというような働きが非常にないわけですから、つまりは我々が今まで総合化、総合化と言ってきましたけども、結局本当の意味の総合施策としての組み立てるところというのがなかなかないのではないかと。先ほどから砂丘の話も出ておりましたように、空と砂丘と海という一つのものを結びつけたのも、これはもう完全に総合的なものですし、私は農業の方でいきますと、米と健康と農地の今荒れている問題も含めていきますと、米の消費拡大、米の消費拡大ということだけを走ってしまうのではなくて、米と健康とあってしかもまた農に戻ってくる。そういう、全部総ぐるみのテーマというのが割合にこの市の行政の中で立てられていないというところが、一つこのずっと流れの検討の中であつたのではないかな。それではどうしたらいいかということにな

るのですが、私はどこでもやられていることでありますけども、これをやっぱりプロジェクト手法に置きかえて、空と砂丘と海というようなものをいい表現のプロジェクトの一つは据え、もう一つは米と健康と何とかというようなものが一つの大プロジェクトで置く。そのプロジェクト手法の良さというのは参画するものも全部一緒になって考えていくし、内だけではなくて外に向けても発信していくというようなことになって、このプロジェクト手法は非常に、大学の研究や企業だけの問題だけではなくて、最近行政でもずっと取り上げておりますけども、こういう問題に対してのプロジェクト、単なる課題解決ではなくて推進していく、発展させていく、しかもみんなでというような、このプロジェクト機能を生かした取り組みで、今までずっと論じてここに書いてあるものをまとめていけるものができたらなということを感じましたね。

委員 今の若い人や家族が泊まれるようなもうスタイルになっていないですよ。旅館経営者の方の意識といえば意識ですけども、県の方も市の方もああいう施設の改善のための低利融資制度を設けていらっしゃるから、本当に泊まっていたけりような施設がほとんどないですよ。あそこが滞在型受け入れの一番、ある程度集積したところです。将来、姫鳥線の結節点もそこらあたりになりますし、賀露漁港もあったりして、あそこが、リニューアルしたりして、おもてなしの心があれば。

部会長 もうちょっとそういうきっかけができればいいですけど。

委員 専門誌には載っているのですよ、ここがおいしい、ここがいいとかというのが。彼らだけの専門誌には。だから、その専門誌は確かに彼らだけが一番いい方法をとった専門誌にしようとした。宿泊の施設も、サーファーならサーファー、パラグライダーならパラグライダー、たこ揚げならたこ揚げ、その人たちが一番利用しやすい施設にしてあげるといことなのですよ。それが一番必要なのですよ。みんな一般の観光客に通用するであろうとこちらが考えた施設なのです。向こうが一番使いやすいと思われるような施設が一つもないということなのですね。

委員 一つもないというかそれはだれもつくったことがないのでね。だから、彼らの要するに意見を取り入れてつくってあげればいいことなのだけど、それをやるのは大変難しいと思います。

委員 そうなのです。だから、その辺を、ではサーファー専門だとか何が専門だというのではなくて、彼らの意見を取り入れて、ある程度それが許容できる施設というようなものが今後必要になるのかなというふうに思うのですけどね。

委員 その辺にありますよ、竜宮城というのが、あれはサーファーズの施設ではないですか。

○部会長 企業誘致と工業振興の方で書いていただいているのですけど。

委員 2ページの下の方でしょうか。これは鳥取らしさというか因幡らしさを売り物にした産業振興ということからちょっと考えてみたところであります。確かに液晶も最近はかなり峠を越して、過当競争がやや過ぎておりますけど、どうしても電子産業だとかそういったものは成長産業で確かに付加価値は高いということはよくわかるし、そういったものを誘致した方が、国の方からの支援措置も多々メリットがありますから、行政当局もそういうところが受けやすいのでしょうけども、やっぱり鳥取のすぐれた農産物や海の幸、こういったものを活用して健康食品というものが今非常に成長しておりますし、だれも健康でありたいと願っているわけでありまして、特に中高年、いろいろな健康食品、そういったことで、鳥取のそういったすぐれた素材を活用した健康型産業、健康食品、そこに対応を絞った産業というのは、健康面でも、健康でありたいという地域の住民の願いや国民の願いをかなえた因幡らしい産業の一つ、ポイントになりはしないだろうかというふうに考えたわけであります。そういったものが着手していただけるにも鳥取大学の医学部の方には健康政策医学部門という新しい分野で、そういった健康食品の開発を専門に研究されている先生もいらっしゃいますし。

委員 ええ。私もちょっと職場の方でシイタケを活用した健康食品を開発していましたが、そういったところへ、いろいろと分析なり医学的な面での効用についても協力していただきましたので、農協さんやら漁協さんがいらっしゃいますし、因幡らしさでは、そちらの方々がふさわしいのではなからうかというふうに思っております。また、そういうものが出ますと、必ず研究部門というのもしっかり必要になってきます。

委員 研究部門というのは、これは非常に重要になってきます。そういうこともまた将来的に基盤をフォローしていただければ、非常にすばらしい鳥大生の農学部等々の卒業生あたりに、また、こういうものがブームになって、いい地元になっていくのではなからうかなと、そんなふうに考えております。

委員 イメージとしては、河原のインターチェンジにわずかですけど、あそこは何というのですかね、「やまて」とかなんとかいうのですか。あそこあたりにちょっと、旧河原町が用意された工業用地もあるように承知しておりますので。

部会長 これからやられるでしょうね。今、アンケートを集めておられて、いろいろと

準備というか、をしておられるようです。3ページの上の方に自分の方がちょっと書いておるのですが、商工会議所で動いたのは、津山との交流を図ろうということで、山を越えて奈義町ほか、向こうの方の工業部会と鳥取の工業部会とで交流しました。それはもう大体卒業して、今度は、姫鳥線がクローズアップしてからは姫路の工業部会との交流で、向こうの企業さんとの出会いときっかけをこしらえようということで、向こうの方に来てもらう、こっちから行くというようなことで、今のところいろいろやっております。今度、佐用までが高速化になりますと、やはり行動範囲というのが結構広がってくるなというような感じがします。そうしてきますと、やっぱり関西の方が物すごく近くなるということで、先日、鳥取市の大阪事務所の方にも寄ったりして、それであの近辺のアンテナショップをずっと見て回ったりということで、関西の方も見てまいりました。それから、会議所としては東大阪の工業関係のところと、それからまた今度はトンネルができてから奈良がすごく近くなったということで、都市規模の方も鳥取と似通っておるということから、奈良とちょっと交流してみようかと。要は一日の範囲内で行って帰れるような距離範囲が結構広がってきたなど。新しいそういう出会いときっかけを、そういう商工団体の方でやる、それで鳥取市さんの方で予算を組んでもらって、官民が一緒になってそういう地域の商工団体と密接に訪問し、それからそのときに企業訪問して販路を開拓していったら、結構近畿圏というものが鳥取のエリアの中に入ってくるなど。いわゆるストロー現象もあるかもわからないけど、こっちからも積極的に出て行って受注拡大をしながら雇用を拡大していくようなことになれば、ということで、ここにちょっと書いたような内容です。そういうことを実際に今のところ動いております。

委員 私は、農業の方でいいますと、一つの農業問題はやっぱり日本農業というのが基本だと思います。鳥取市農業というのはあり得ない話でありまして、日本農業ということから端を発するわけで、何かといえますと、最近クローズアップされておる自給率に戻ってくるわけですし、自給率というのは、率は、これは結果論でありまして、結局は自給力があるのか、食糧供給力があるのかという力の問題。これは今の石破大臣が持論として、今、打って出ておられますから期待しておるわけですが、自給力と言うからには、これには手段があるわけですし、手段は農地と水と、それから環境と技術、この4つと言われておるわけですから、この4つの手段になるものをどうして力として発揮させるかということに尽きると思います。そういうことからいきま

すと、総合的にこれもとらえなければならないということで、地域政策であったり所得政策であったり、そこに人が住んで暮らせるという、そういうものがバックになれば、保障されなければ、そういう力も発揮させられないということですから、ここに書いておりますように中山間地域の対策であったり所得政策、暮らしに収入としてつなげられると。これは今のところ一番手っ取り早いのはやっぱり地産地消という中での所得政策。といいますのは、今、日本農業の産業としてとらえた場合には、もう担い手ということで大規模農家を目指しておるわけです。これも間違いではないと思うのですね。ですけど、実際には小規模な農家の人で支えられておるわけですから、今、鳥取市で考えなければならないのは、そういう小規模な農家にも力が出てくるような、そういうものが必要だと。それは一番手っ取り早いのはやっぱり地産地消。地産地消を拡大して考えると、今回のテーマである高速道路というものを生かした地産地消という、そういう視点で今後の施策に組み立てていただいたらなというように思っています。

委員 高速道路等に関連するということは、誰かが消費しに来てくれるということというふうに考えてよろしいのでしょうか。地産地消の「消」を、地消するためにだれかが来てくれて消費をするというふうに考えればいいのでしょうか。

委員 ええ。いわゆるその地域での消費という意味合いは、そこに住んでおる人だけではなくて、そこに入ってきた人も地域の人という、消費という意味合いの位置づけという意味でございます。

委員 多分食べ物というのは、できたところに行って食べるのが一番おいしいのだと思うのです。

委員 だから、そういう形での、要するに観光客誘致の大きなあれになると思いますし、都会型の人間としては、多分農業体験というのも非常にすばらしい体験観光だと思いますので、NPOを含めて、ボランティアも含めて、そういう人を呼び込む施策というのがここに一行あってもいいのかもしれないなと思いついて見ました。

部会長 その体験農業とか市民農園とか田畑オーナーとか、何かその辺ではもうちょっとあれとか、計画というか。

委員 ええ、そこの考え方の動きはもう既に出ておまして、文部科学省は小学校、中学校を農業体験のために宿泊を含めてやらせると、こういう方針も出て具体化しておりますから、ですから、やります、やらせますはいいのですけども、今度は受け入れ

ますというところができていないのですよ。

部会長 この受け皿のあたりをどうするのですかという・・・。

委員 民宿も含めて、施設からそういう体験、1週間修学旅行がわりにさせます、みたいなことを言ったりするわけですけど、何をするのがいいのか、単に眺めて、乳を搾って帰っていくのがいいのか、そういう長続きするものを考えなければいけないわけですね。ですから、大体の方向づけは出てきたのですが、具体的にこの鳥取で、では何がどのように仕組めるかというところを問われてきておると思いますね。

委員 来る人たちというのは大阪の小学生とか神戸の小学生。

委員 そうです。都会です。

委員 いや、僕の考えでは、それと、プラスその人たちの親御さんがNGOとか、そういうのをつくっていらっしゃると思うので、その人たちに一緒に知恵で入ってもらってプログラムをつくってもらいたい流れをつくれれば、うちの子たちにはこういうことをさせたいと思います、農地作業の中でのこの部分をボランティアだとか、それから体験型の学習とかという形で、はっきり言えば、ただの労働力を、向こうから金を払って来てもらってやってもらおうと、そういう考え方でやればいいのかと思うのですね。

委員 そうですね。今おっしゃるように、結局、専門的なものが必要になってきますから、今、農協観光あたりも、全部それをつなぐメニューを描いて斡旋もしたりしておるのです。ところが具体的になりますと、マムシがもし出てきて、マムシがかんだらどうするかという細かい問題になってきたら、では、草原の中に入ってマムシが絶対にいないというところまで受け入れ態勢を整備するということになると、誰の責任でどうするかということになってきまして、これは非常に、本当に難しい問題が起きてきておるのですよ。

部会長 難しいですね。

委員 保険を掛けて、一筆とってもらうしかないですよ、そういう場合はね。

部会長 そういうことですね。

委員 私は地産地消ももちろんいい、そうなのですが、食べることと野菜とか、そういうものではなくて、林も仲間に入れるべきだと思うのですよ。

部会長 林業の方。

委員 山、林業もね。だから、その体験もやっぱり、いろんな面で、また別のおもしろい体験が、山の杉を育てるとか、炭をつくらせるとか、そういうことも総合的に考

えていくべきなのではないかと。

委員 一つ思いついたことがあるのですが、前回、学校給食の自給率ですか、地産地消の。それが随分上がってきているという話だったのですよね。前は20から30%くらいでしたか。何か随分上がって、県内産のもので給食を賄うようにということで、それもどんどん上がってきているというのはやはりうれしいなと思うのですが、やっぱりそこを、学校給食を主に自給率を上げて地産地消を目指してってもらいたいというのと、それと、さっき体験型というのがあったのですが、鹿野の鬼入道のあたりでやっておられますよね、ずっと夏休みを利用したりして関東の方の親子連れから、すべてあちこちに声をかけて。だけど、初めは本当に受け入れる方も排他的であったり、非協力的だったのが、やっぱり年々回を重ねていく時点で周りの人たちの理解もできて規模が膨らんできたという話は聞いたことがあるのですが、やっぱりさっきの地区懇談会ではないですけど、自分のところの特産品を何かメインにして、その人たちが民宿を兼ねるような、そういう受け入れできるようなことも含めて、話し合いの場を、それも含めて一緒に持ってもらえたら、結局、受け入れができていないというのが一番の体験型の問題になっていると思うので、やっぱりその辺の地元の人たちの協力を得るためにも、そういう懇談会のときを利用してそういう話をしたり、みんなの意見を聞いたり、活性化に向けてその地区のものを、アピールできるようなものを育てて、受け入れるような体制づくりも考えていける、その機会ではないかと思うのですが、利用していただきたいなと思います。

部会長 ありがとうございます。時間が余りないので、急ぐようですが、では、次に4番の方で、今度は観光PR戦略ということで、結構いろいろ皆さんの方からこれについては出ております。ちょっと補足して、観光PRの方で、このアクセスの看板とか交通表示ですか。

委員 これは、僕が申し上げたら行政の方も、市役所もそれはいいなということで、可能な限り交渉してみるというアンサーが返ってきていましたので、安心しております。

部会長 そうですか。

委員 それから、道の駅回りは先ほど申し上げました。

部会長 そうですね、ありましたね。

委員 それからレンタサイクル、ケヤキも申し上げましたね。

委員 健康的な街を売りとしたPR戦略という、健康というのは体験型というのを考え

て健康ということで考えているのですけどね。

委員 住環境というのは、多分暮らし全体が体験型とすることができるのではないかなということだと思っております。せっかくこの、安養寺さんの書いてくださった若桜鉄道を何とかしろという話もあるので、ここのところは趣味の、今、鉄道屋さんというのがいっぱいあるので、その人たちの体験型というのは既に始めていますから、それとのタイアップをしてもいいと思いますね。そこは例えば車を運転したり、自動車自体を清掃したりというのも、要するに金を出させてやっていますから、もっと進めて、本当は駅員から保線夫から、みんな向こうが金を出してやらせてあげるという仕掛けにしまえば一番いいのですけどね。とにかく都会の人は何かやりに鳥取に来たがっておりまして、要は金を取って体験させてあげるといって、いや、それが正しいのです。イギリスに保存鉄道というのがあります。これは100個ぐらい線路、路線があるのですけども、全部、ほとんどが、9割方ボランティアの人たちがやって、みんな自分でお金を出して、要するに駅員をやりに来るわけですよ。それでちゃんと黒字で運転していて地元の足になっていますから、若桜鉄道もそれを目指せばいいと思うので、駅員なんてすばらしいものは、昔からの鉄道オタクが死ぬほどいるので、彼らにやらせてあげればいいのですよ。そうしたら人件費が入ってくる部分がある、出ていくどころか入ってきますから、それまで含めて観光戦略にしたらどうかな、というふうに私は思います。だから、要は鳥取に来れば何でもかんでも体験できるよと、それがすばらしい住環境であったり、すばらしい健康的な生活であったりということをやればいいと。

委員 ついでのことを言えば、心の健康というか、そういうのを含めて、例えば谷口さん、今日はいらっしやらないけど、あそこの和紙体験なんかをすればそういうことになるし、文化、芸術も伝統産業も伝統芸能も全部含めてしまえばいいのではないかなというふうに思います。麒麟獅子舞だって、やっていけば、きっと心の健康になるし、しゃんしゃん踊りもそうでしょうというふうに思います。ただし、ここに来て、ここで二、三泊してやっていきなせと。

部会長 どんどんお金を使ってもらわないといけませんね。

委員 いやいや、全くそのとおりだと思いますよ。金を出してもらって体験してもらおうという方法を、いかにその戦略をうまくぐあいに全体で仕上げるかということなのですね。

部会長 そうですね、おぜん立てをするのが大変ですけどね、ちょっと。

委員 やる方としては、これがやりたいから行くのだというものがあるので、そこが金を出さずか出さないかなのですよ。

委員 そうなのです。ラッキョウでも一緒なのですよ。植えたい、切りたい、それをさせてあげたいということなのですよ。

委員 これも砂丘の観光というのではなくて、鳥取市の観光で食生活と言ったのだけど、わかりやすい例で言えば、やっぱり今の話で、都会の人たちに鳥取で体験できることを提案したのですが、わかりやすく言えばシイタケなんか、やっぱり山のほだ場でいいものがとれるのですと、無農薬で。無農薬で、工場でおがくずに入れているようなものではなくて、ああいうものを都会の御家庭の親子の皆さんに、鳥取の佐治だとか河原とか鹿野とか、栽培農家は、いろいろ御苦労はされていますけどいらっしゃるのです。そういうところに来て、この秋にキノコ料理を食べていただいて、鳥取で泊まって、栽培農家に泊まっていただいて、そしてそこでほだ木に植えつけを経験していただく。3年ぐらいたたないとキノコは出てきませんが、出てくれば5年ぐらい続きますから。やっぱりキノコが出るときにまた来ていただいてキノコ料理を、できたのをもぎ取りしていただくと。

○部会長 実際に自分でとってもらってね。

○委員 オーナーになっていただいてもいいしね。

委員 それは絶対に受けますよ。しいたけは前からそういう話もあるし。

委員 そういう形を例にイメージしておりましてね、やっぱり今おっしゃったように、それを鳥取で、豊かな食材が楽しめる、体験型でもぎ取りもできる、また来年、鳥取に行ってみようかと、どんなものが出ているかなと、そういうのを関西方面、山陽方面の都会の御家庭の御家族の皆さんに体験してもらえば、少しでも鳥取のまた観光PRになるし。

部会長 そうですね。特にあのジャンボしいたけは。

委員 特にジャンボしいたけで、鳥取でしかそういうものは、貴重で売っておりませんから、そういうふうなこと、そういうところを通じて、また栽培農家の方々との、田舎と都会との交流ということもできて、いろいろまた情報発信にもなるのではないかなと思いますね。

委員 ぜひナシでも考えてやってください。ナシ農家って一番何かつらいでしょう、作

業が。体験型の人って、きつとつらければつらいほど喜ぶのではないかなと。

委員 だと思えます。ラッキョウしかり、もう八東の方に行くと、いわゆる正月には必ずつるしがキは要るのだから、やっぱりそういうこともさせてあげるとかね、つるしがキとか。

委員 なるべくくだらなくて苦しい仕事を、ちゃんとプログラムして。

部会長 あのつるしがキって、結構労力が要りますからね。皮をむいてあれをしたら。

委員 今言われた、こんなことをやったのだよと持って帰ることがお土産なのですから。

委員 だから苦しければ苦しいほどいいし、みんなが知らなければ知らないほどいいわけです。

委員 人がしたことのないことを体験できるというのは、非常に自慢になりますからね。

委員 そうなのですよ。

委員 だけど、そういうことを例えば産地とか農家の人たちがさせたくても、それをどういう形で持っていくとか、その手法がわからないわけでしょう。そういうことを手助けするのが行政で、やっぱりいい案がいっぱい出ても、具体化しないと。

委員 あと、だから都会のボランティアの人に来てもらって、まずプロジェクトをつかって、その人たちにプロモーターになってもらって、これでどれをどう切り分けて、どういうふうに持っていけばいいのかというのは、ボランティアの人たちを募ってやればいいのですよ。だから、行政としては多分NGOなりボランティアの人たちに声をかけてもらって道筋をつくるというのをやればいいと思うのだけどね。

委員 観光誘致的に一人一人では大変ですから、例えば神戸なんかでも御婦人の方々が市役所と連携して食改善研究グループを幾つも持っておられますから、そういうところにまず網をかけてみるのです。そうすると一度に30人、50人お見えになるわけです。

委員 その中の人たちで、今言ったみたいなアイデアをどう都会の人たちにコーディネートしてもらおうかと。コーディネーターの人たちも全部向こうのボランティアでやってもらうというふうになれば、金もかからずにすむでしょう。

委員 まとめではないですけど、さっきのシロイカの反論なんですけど、40年代、40年ごろに釧路の観光課長が来まして、鳥取市の方と提携した直後にね。僕は案内しろということで、たくみでシロイカの刺身を食わせたのですよ。うまいでしょう、課長と言ったら変な顔をしておってね、なぜかという、釧路では、イカの刺身といっ

たらどんぶりで、わさびやしょうゆをかけてずるずるずるずると、要するにうどんみたいに、イカそうめん。だからたくみさんでちょろっときれいに盛って、味わってくださいと言ったってね、全然スケールが違って、こうして食べるものですと。だからうんともすんとも言えなくてね。だからケース・バイ・ケースということもあったというお話をちょっと紹介します。

○委員 例えばエビのてんぷらは天どんと言いますね、普通ね。でもこれは、うちはメニューとしてモサエビの天どんと書くのですよ。モサエビって何という格好でね。いやいや、こうこうだと。では、それを食べてみようということで、すごくいいわと。ただ、値段的に原価計算をすると、一つのどんぶりに4匹にしるよということなのだけでも、5匹入れると。御飯が見えないようにしるよと言っているのですよ。そこがやっぱり人気、今言った、やっぱり山盛りに、イカでも必ず皿ではなくて小さい船に1匹を乗せると。それで大根でもすごく、ちょっと山にしると。やっぱり1匹食べなければ、足から耳まで全部。やっぱりそれはそういう気持ちになりませんか。こんなちょこっとなんていうのはだめですよ。

部会長 川上さんの方は何か、もうちょっと、もう少し。

委員 先ほど体験型の話が出てきまして、私どもも食育や食農教育の方でいろいろ勉強中なのですが、やはり話が出ておりましたように、感激、感動ということが一番大事だと。それは知識ではなくて、やっぱり五感に訴える、そういう場面が必要だと。感激、感動というのはどういうときに起きてくるかというところで整理してきておるのですが、まねごとではいけないと。やっぱり本物という、真剣といいますか、そういう場面に遭遇したときが場面としてはあると。したがって、そういうものをいかにつくっていくかということなのですが、例えばナシの袋かけといいましても、ただの学習として袋かけをするというのでは、これは学習体験になるわけですし、本物というのは勤労体験の方になるわけですね。だから、その家のお手伝いになって役に立っているという、そういう場面で、間違えれば収入が減るぞという、そういう真剣な場面にどう立たせるか、それを仕組む側の方では自然体にそれをどういうふうに持っていかと。お小遣いをやるから手伝ってくれというところの域ではなくて、そういうところをどう持っていかということですし、それから、なかなか体験できないものをどう仕組んでいくかということですが、我々がなかなか、今、一部しかできていないのは、物すごく感激、感動したというものの中では家畜の、牛の分娩に出会

ったというものです。分娩というのは、昔の私たちの子供のころは家の中に牛がおりましたからいつでも見ておったのですが、この分娩を見たか見ないかというのはものすごいのです。それで、それをどう仕掛けるかということ、牛が計画的に産めるわけではないですから、いざというときには登録した酪農家が連絡をとり合って、いつでもそのときに見てもらえるようにというような承諾をしてもらっておる農家をつくっておくかということで、そうしたら分娩中にみんなが騒いで、かえって迷惑をかけるのではないかということでしたけども、まさに先ほど言いましたように感激、感動、真剣でして、分娩のときに騒ぐ子供は一人もいませんね。そういうようなことが、だんだんだんいい方へいい方へ仕向けられていくのだなということを今考えたりしておるところなのですけどね。

部会長 その辺の知恵を出していかないといけませんね。

部会長 今日は部長さんの方にも出ていただいておりますけど、今、いろいろな話が出たのですが、何か部長さん、ちょっと感想というか、ありましたら、ちょっとここで言っていただいております。

大西経済観光部長 実は今回、きょうで7回目ですか、ただ、私、関西視察の方はちょっと欠席させていただきましたけど、皆さんからの方の意見も随分とお聞かせいただきました。それで、この部分、他課に属する部分もあつたりしておりますので、そのあたりを行政として調整をして、また予算時期でもございますので、十分皆さんの意見を組み入れた来年度の予算執行をできるような方法をしていきたいと思っております。以上でございます。

事務局 そうしますと、長時間ありがとうございました。では、30分から、冒頭申し上げましたように、隣の部屋で全体会ということで、清水部会長の方が、御発言いただいた意見等をこっちでまとめ、発言をしていただくこととなりますので、会長さんの方は大変お手数ですが、よろしくお願ひしたいと思います。

部会長 内容がたくさん出ておるからなかなか難しいです。

事務局 一つの部会に10分から15分ぐらい時間がとっております。割と長目にとつてありますので。

部会長 そうですか。それだけとつてあつたら。

○事務局 終わりになりましたけど、昨年の5月から皆さん方には市政懇話会の委員さんとして御就任いただきまして、大変長い間お世話になりありがとうございました。至

らぬ事務局で、多々不都合等もあったと思いますが、改めておわびして、あわせてお礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。

部会長 では、皆さん、御苦労さまでした。